

平成25年度第二回講演会

- * とき : 平成25年9月11日(水) 16:00～17:30
- * ところ : 新潟大学駅南キャンパス ときめいと TEL025-248-8141
- * 講師 : 国立病院機構 西新潟中央病院
院長 亀山 茂樹様
- * 演題 : 笑いの脳の回路(笑い発作と最先端外科手術)
- * 主催 : NPO新潟情報通信研究所

コメント

- ・普段はめったに聞けない話で内容的に難しい点もありましたが、医療の分野でも新潟発があることを参加者全員で確認しました。23名の参加がありました。
- ・第二部として17時30分以降は講師、理事長を含め、意見交換会を開催しました、普段は病気でもないとお話できない院長先生と時間を忘れて話をすることができました。
- ・20歳代後半の参加者は、もっと自分を前面に出しても良かったのではと反省しきりでした。次回はもっと前に出る！との宣言あり。期待しましょう。

講演模様



講師紹介



亀山茂樹（かめやましげき）医師

国立病院機構 西新潟中央病院(新潟県)

院長

脳神経外科

視床下部過誤腫センター長

專門

てんかん外科 機能性癲癇外科 視床下部過誤腫への定位温熱凝固術

てんかん手術が無事成功 亀山院長ら開発の「定位温熱凝固術」で

【新潟発・諏訪敬明新潟日報編集委員】てんかん患者のブラジル人の男児が昨年11月、治療のため家族とともに日本に渡航し、新潟市の病院で手術を受けた。その後、発作などの症状は収まり、入院から約1か月で無事退院、帰国した。手術から約半年。合併症や後遺症が出たとの報告はなく、病院長は「経過は良好だと思う。男の子を苦しめていた症状が消えて何よりだ」と喜んでいる。

手術を受けたのはリオデジャネイロ郊外に住むエンヒコ・ノバエスちゃん（5）。乳児の頃から頻繁に笑うことに母親が気づき、現地の病院で診察を受けたところ、「笑い発作」と呼ばれるてんかんの症状と判明。「視床下部過誤腫」という病変が脳にあることが原因と分かった。

この発作は本人が無意識に大声で笑ったり、にやにやしたりするのが特徴。一日に数回から数十回現れ、意識を失うまで笑い続けることも多い。薬が効かず、治療方法は手術だけ。放置すると行動異常や精神発達遅滞が生じる恐れがあり、早めの手術が有効とされる。

以下略

H25. 09. 11 NPO新潟情報通信研究所第二回講演会参加者											(ミニ講演会)	
		21	22	23	24	20代	30代	40代	50代	60up	合計	備考
学生											2	数名の参加が予定される
教職(教授等)									2	1	3	脳波研究、堀潤一教授他
公務員							1	2		1	4	
通信(キャリア)							1	1			2	
通信(放送局)						1					1	
通信(構築工事)							1				1	
サービス								5			5	
自由業										6	6	
講師	1										1	
	1					1	3	8	2	8	23	
H25. 09. 11 確定											ときめいとミーティングルームA	